

日本油脂武豊工場爆発・火災発生

湿綿薬の自然発火か

13日午前10時20分、知多郡武豊町の日本油脂(株)愛知事業所武豊工場（黒川孝一工場長）で、湿ニトロセルロース（綿薬）の火災・爆発事故が発生し、数十回の小規模な爆発音が連続して発生し、付近の住民の不安の声があがりました。

同工場では、10日からお盆の休業に入っていて、一部操業している工場に10人程度の従業員しかいませんでした。火災現場から80m程離れた工場で働いていた人が、ボンという音に気がついて外へ出てみると、出火現場付近から黒い煙とともに連続してボンという爆発音があり、急いで消防へ通報（消防の覚知時刻は10時32分）。11時過ぎまで、爆発音が続き、黒煙を発生して燃え続けました。

火災を起こしたのは湿ニトロセルロースで、総量33.2トンが燃焼。午前11時41分、いったん鎮圧を発表しましたが、その後隣室へ延焼して燃え続け、結局、12時54分に鎮火しました。

付近の住民は、「日本油脂は何をやってるんだ。7月17日に工場見学会をやって、こんなに安全には力を入れていると説明があったばかりじゃないか」とずさんな安全管理に声を震わせていました。

記者発表を担当した環境安全管理室長の枝村康司氏（57）は、記者の質問に、「湿綿薬は火薬の原料で、ダイナマイトや無煙火薬などに使われる。自然発火の可能性については否定することはできないが、断定もできない。これからの原因究明にまちたい。」と答えました。

また、午後4時から記者会見に臨んだ黒川孝一武豊工場長は、お詫びした後、「原因を究明し、再発防止に努めたい」と言葉少なに釈明しました。

爆発・火災の概要

出火場所 知多郡武豊町字北小松谷61-1 日本油脂(株)愛知事業所武豊工場内

出火時刻 8月13日午前10時32分 知多中部広域消防覚知

鎮火時刻 同 午後 0時54分 けが人なし。

この間、数十回とも数百回ともいわれる小爆発が30分余にわたって間断なく続く。最初、黄色ないし赤褐色の煙が挙がり、その後、黒煙となり、鎮火間近になって白い煙が立ち昇ったという近隣住民の目撃証言。

建物概要 湿綿薬倉庫（置き場）

鉄筋コンクリート造、スレート葺き 平屋建て倉庫 750㎡

3分室となっており、うち第1分室と第2分室が燃焼。

焼損面積 280㎡（半焼）

延べ焼損面積 420㎡

貯蔵内容 湿綿薬（ニトロセルロース） 33.2トン。含水率27%。自社製。
この部分が焼却（第1分室、第2分室）。
ニトログアニジン 12.5トン（第3分室にて保管、焼却なし）
共に、危険物第5類に分類。火薬類製造の原料となるもの。
200ℓドラム缶に密封して保管。ドラム缶総数、ロット数、保存期間等、
事故の原因究明に関する事項は、現在、警察の調査中につき発表できない
とコメント。

出火原因 「自然発火か」との記者の質問に、「自然発火も可能性の一つではあるが、
現在、警察の調査中につき断定的なことは申し上げられない。漏電など他の
原因も否定できないので、調査結果を待ちたい」と説明。

その他事項

- 7月17日 近隣住民の見学会開催 12名参加。安全確保の実績を強調。
- 8月 1日 従業員による防災訓練実施。
- 8月 9日 お盆の連休（10日から17日）にあたり、事業所内全体の安全点検
を実施。

このような取り組みの上での今回の爆発・火災事故の発生。会社に対する不信と不安の高まりは当然と思いますが、みなさんはどのようにお感じでしょうか。
ご意見・ご要望等、ぜひ、お寄せ下さい。